

平成29年度の病床機能報告結果等について

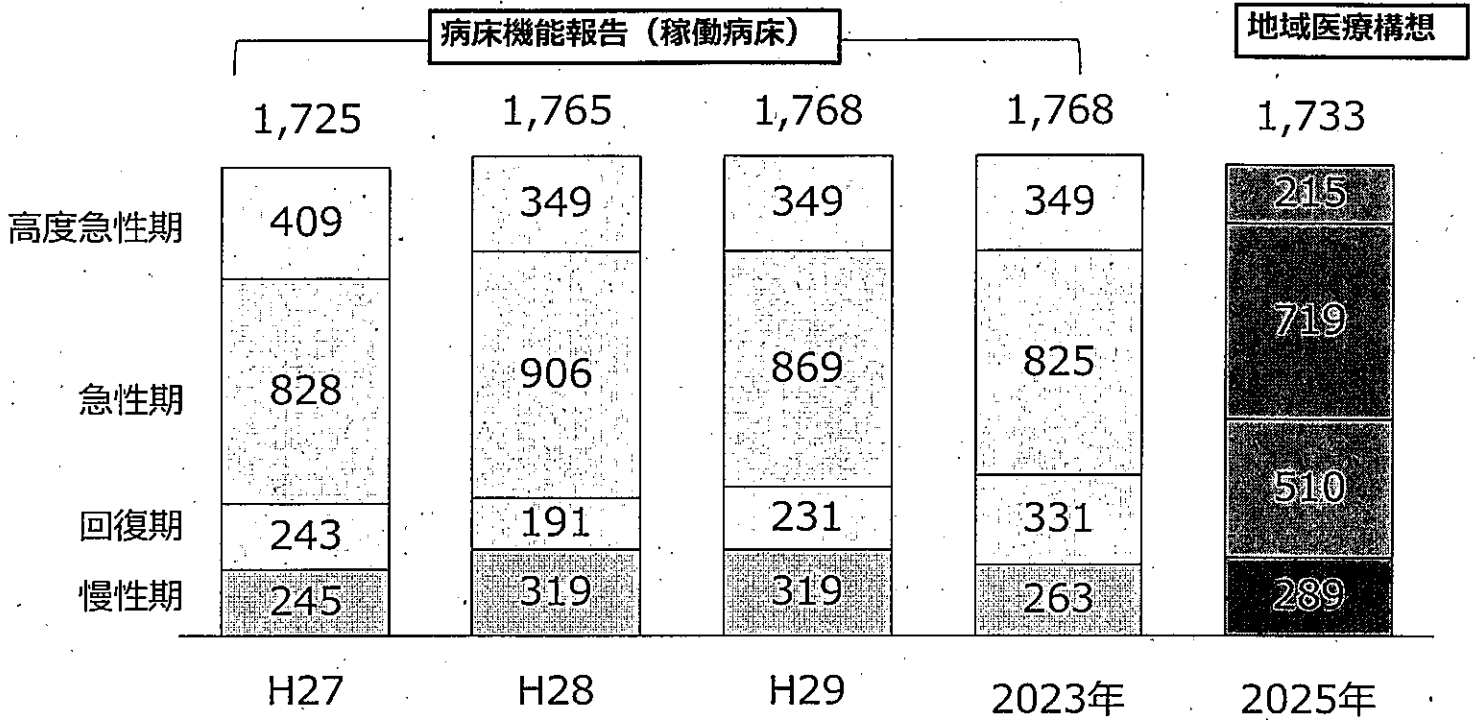
1

病床機能報告上の医療機能に関する考え方

2

2025年の病床数の推計値と病床機能報告結果の推移

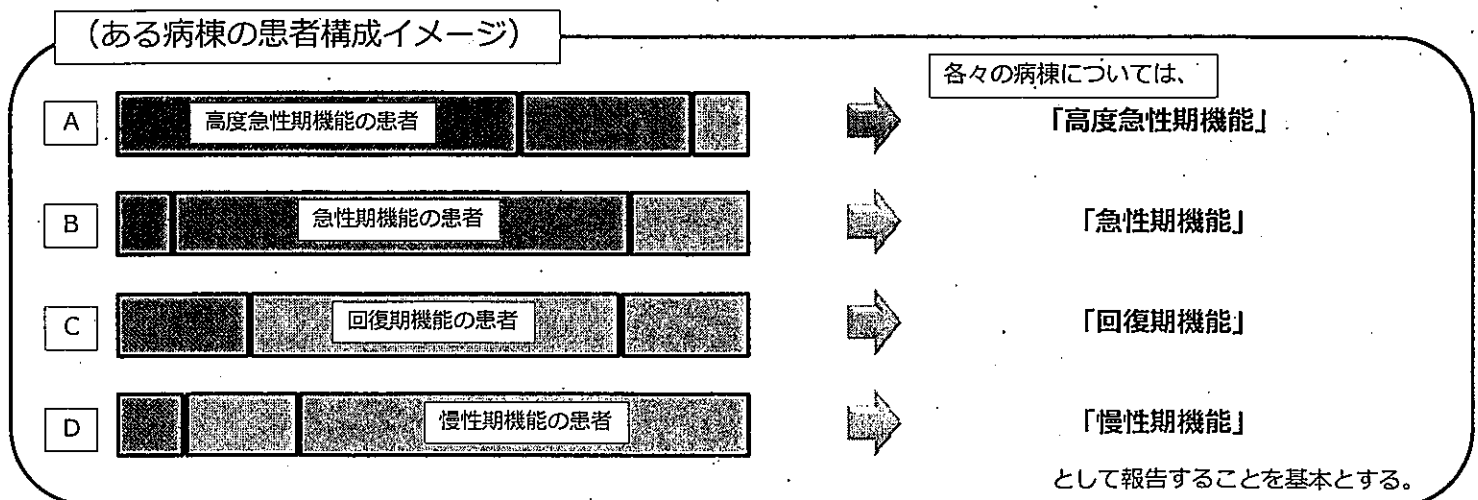
- 2025年の病床数の推計値と平成27～29年度の病床機能報告結果の推移は以下のとおり。
- 年間後の慢性期機能の減は、既存の慢性期病棟を回復期病棟へ転換することを検討しているもの。



3

医療機能の選択に当たっての基本的な考え方

病床機能報告においては、病棟が担う医療機能をいずれか1つ選択して報告することとされているが、実際の病棟には様々な病期の患者が入院していることから、下図のように当該病棟でいずれかの機能のうち最も多くの割合の患者を報告することを基本とする。



4

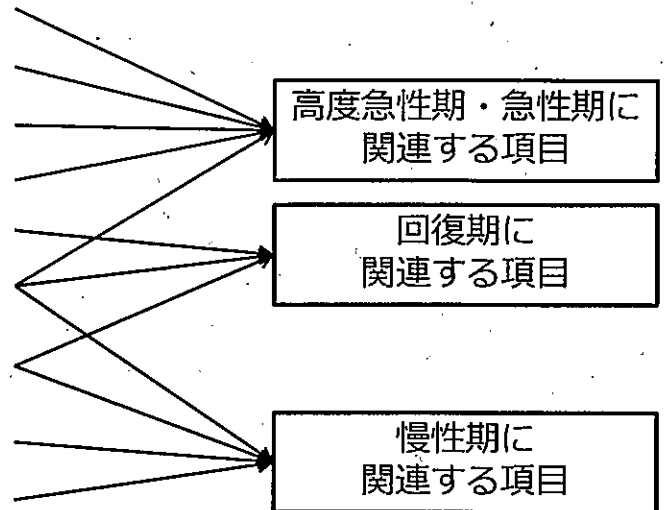
具体的な医療の内容に関する項目と病床機能

○ 病床機能報告における「具体的な医療の内容に関する項目」と、病床機能との関連性を以下のとおり整理。

【具体的な医療の内容に関する項目】

<様式2>

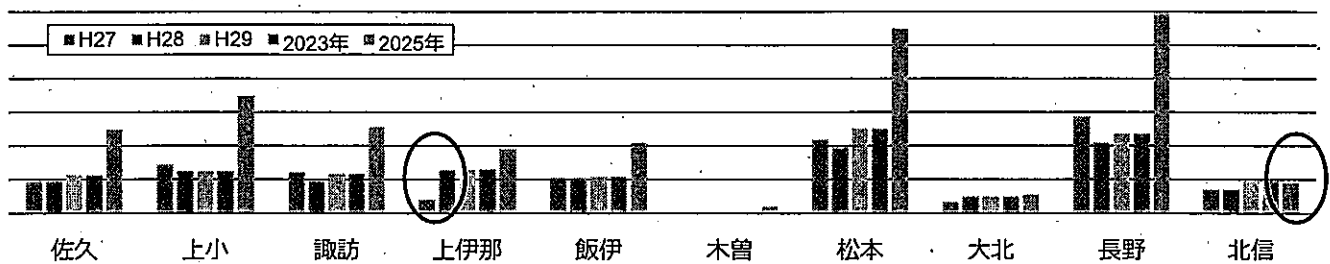
- 3. 幅広い手術の実施状況
- 4. がん・脳卒中・心筋梗塞等への治療状況
- 5. 重症患者への対応状況
- 6. 救急医療の実施状況
- 7. 急性期後の支援・在宅復帰への支援の状況
- 8. 全身管理の状況
- 9. 疾患に応じたリハビリテーション・
早期からのリハビリテーションの実施状況
- 10. 長期療養患者の受入状況
- 11. 重度の障害児等の受入状況
- 12. 医科歯科の連携状況



他圏域での回復期への転換事例

【各圏域での回復期機能の充足状況】

以下は、平成27年~平成29年度の病床機能報告において、回復期と報告のあった病棟の病床数の推移



【病棟機能を変更したもの】

7対1病棟を転換しサブアキュート型の地域包括ケア病棟を整備し、回復期と報告しているもの。(北信)

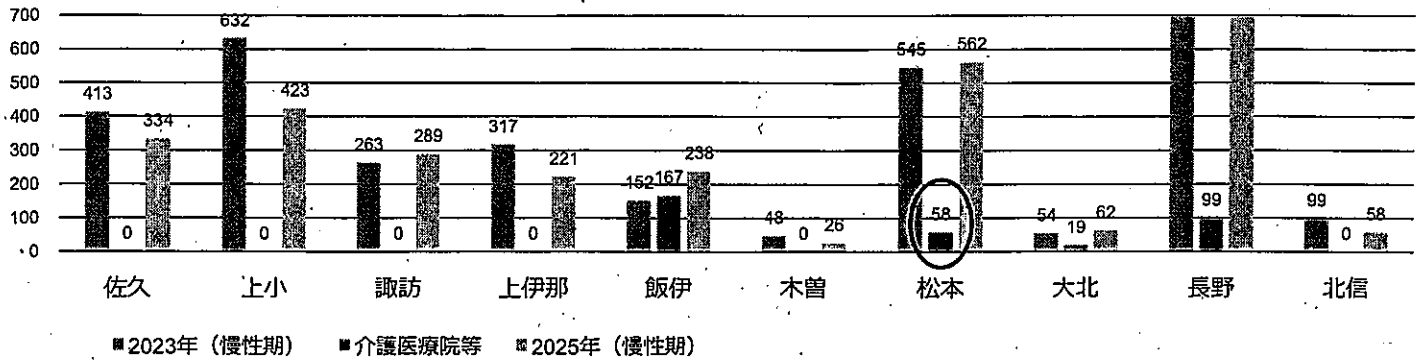
【病棟機能の変更はないが実績に応じて報告する機能を変更したもの】

当初、10対1病棟を急性期と報告していたが、入院患者の重症度等を踏まえ、報告する機能を回復期へ変更(上伊那)。

他圏域での介護医療院等の整備状況

【介護医療院等への転換予定】

以下は、平成29年度の病床機能報告における、慢性期病床の介護医療院等への転換意向の報告結果（報告年度の6年後までの転換意向）



【直近の状況】

- 平成30年8月1日付けで、松本医療圏の上條記念病院が介護療養病床の転換により、介護医療院を設置